



令和2年度 第9号 令和2年12月10日

鶴 星

阿久根市立鶴川内中学校

校 訓

スクールコンセプト

ともに**夢**と**希望**を育む鶴川内中

協 自 自
調 律 主

一 校 一 風

育てよう**花**と**心**と大きな**夢**を

校長室の窓から コロナ禍におけるご支援・ご協力に感謝，よいお年を！

校長 中山 武広

私事で恐縮ですが，今年1月の半ば過ぎの頃，インフルエンザに罹患しました。ちょうど私立高校入試前の時期だったので，3年生への感染が特に心配になり，休みを取って自宅隔離の状態の数日間を過ごしました。その甲斐あってか，本校では私以外にインフル罹患者は出ませんでした。無事に私立入試も終わって安堵していたところ，世の中は，インフルエンザのことは置き去りにして，新型コロナウイルスのほうで慌ただしく動き始めます。1月末から2月にかけて大型クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の船内集団感染があり，その後，国内感染が増加の一途で，3月には全国一斉に休校する事態となりました。以後，今年は，どの局面を切り取っていても新型コロナに翻弄された1年となりました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

長期間にわたって翻弄され，今なおコロナの影に脅かされていますが，そのような中，本校教育活動は，やむを得ず完全中止にした「職場体験学習」等を除き，規模縮小や内容変更等の対応をしながら，概ね当初の計画どおりに進行してきました。

本校職員の創意工夫はもとより，生徒の皆さんがいつも元気で明るく前向きでいてくれて，さらには，地域・保護者の皆様の多大なるご理解・ご支援・ご協力があったればこそと，確信するところです。完全中止・規模縮小・内容変更等があっても大きな混乱なく，本校教育活動が充実感や達成感をもって円滑に実施できましたこと，各位に深く感謝申し上げます。

令和2年，誠にありがとうございました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

さて，令和2年も年の瀬となり，まもなく新年・3学期を迎えますが，県内外の新型コロナの脅威は増すばかりで，本市においても身近な現実になりつつあります。この冬は，これまで以上に，「手洗い」「うがい」「マスク着用」「手指消毒」「三密回避」等の感染予防策を徹底して過ごしたいものです。新年がコロナに打ち克つ年になればと切に願います。

どなた様もよいお年を！

行事予定

月	日	曜	11月後半～12月の主な行事
12	12	土	校内持久走大会 学級PTA
	13	日	門松づくり(8:00～)
	14	月	全校朝会
	17	木	健康教室(2年)
	21	月	生徒集会
	24	木	終業式
	25	金	第2回市中学生会議
	28	月	仕事納め
1	4	月	仕事始め 市成人式
	8	金	始業式 身体計測
	9	土	補充問題・錬成テスト
	12	火	鹿児島定着度調査(1・2年) 実力テスト(3年)～14日
	18	月	生徒集会
	19	火	2年研究授業(特別活動)
	22	金	新入生説明会
	25	月	全校朝会
	29	金	3年学級PTA

年末年始の過ごし方については，別紙で配付される「冬休みのしおり」を熟読し，日頃できない体験もしつつ，しっかり記録に残しましょう。

13日(日)8:00から門松づくりを行います。ご協力をよろしくお願いいたします。

努力目標

冬休みの生活設計を立てよう。

一事徹底

登下校の交通ルールを守ろう。

出前授業 エネルギー教室

11月10日(火)
エネルギーについて考えました。



九州電力から3名の方が来られて、「エネルギーって何だろう」をテーマに出前授業していただきました。自転車に乗った動力でテレビを点ける等、実践的・体験的な学習により、エコに生活する大切さを学びました。

立会演説会・生徒会役員選挙

11月12日(木)
主権者教育の一環でもあります。



政治の仕組みを実践的に理解する場でもありました。立候補者、応援演説者全員がよりよい学校にしたいという熱い思いが伝わりました。さらに、多面的に捉え、自分なりの考えをもって選挙管理委員会からお借りした実際の投票箱、記入台によって投票を行うことができました。

11月30日(月)
バトンパス！ 新生徒会発足！

生徒会引継式

生徒会引継式が行われ、今期生徒会長の山口新太さんを中心とした役員から来期生徒会長となった山下太一さんを中心とした役員へと引き継がれました。生徒が主体的に学校行事等を企画・運営していく伝統を確立し、その姿から多くを学んだ後輩がさらに生徒会活動を充実していきます。

【新生徒会役員】

生徒会長	2年	山下	太一
副会長	2年	貴島	麻衣
副会長	1年	又間	力
書記・会計	2年	砂川	美紗希

学習文化部長	2年	若松	夢月
副部長	2年	青木	椿花南
生活保体部長	2年	藤田	悠慎
副部長	2年	富吉	もえ

★余白の美 空っぽの美学

日本人の美意識を象徴する言葉に、余白、余情、余韻といったものがある。古来より“余り”の部分にこだわり、心を動かされてきた日本の文化は、日本画にしろ、書道にしろ、余白の扱いが作品の出来、不出来に大きく影響するといわれる。つまり、“余白”とは、決して無駄で不要な空間ではないのだ。

日本の和室や茶室などもまさに“余白”，空っぽの美学。無駄なものが一切ない。畳、ふすま、障子、床の間…あるべきものが、あるべき姿で、あるべきところにある。何も無いようで、すべてがそこにある。日本人独特の美的感覚である。空間を大事にし、そこに美しさを求める国が日本ともいえる。

かつての江戸の町は、あの時代、人口100万人を超える世界有数の大都会だった。ゴミ処理の行き届いた美しい町、「リサイクルに努めるエコ社会」だったといわれる。我が国は、ゴミを散らさない文化も受け継がれている。

放課後の教室や移動教室の際の君の教室は、その学級のすべてを物語る。玄関に入れば、その家が見えてくるように、空っぽになった瞬間に、すべてがそこに見えてくる。偏見や思い込みがあるかもしれない。しかし、見えてくるものはある。今一度、見直そう。空っぽの空間に映し出される姿こそ学校、その家庭の顔ではないだろうか。校舎、地域、家の至るところに、先人の思いが込められている。大事にせずして、大切なものを得られるとは思えない。

受賞について おめでとうございます！

- 県児童生徒作文コンクール市審査会
特選 3年 尾原美菜 2年 富吉もえ 1年 奥園こゆき
- 市小・中学校読書感想文コンクール
優秀賞 3年 尾原美菜 2年 青木椿花南 1年 山下和太瑠
- 「こころを紡ぐメッセージ」コンクール
準大賞 3年 春田亜由美 入選 保護者 池田 育美
- 令和2年度 阿久根市英語暗唱大会
最優秀賞 3年 山口優希 2年 青木椿花南
優秀賞 1年 青木想玖星 1年 坂松 星空

